

平成 22 年度  
事業報告書

自 平成 22 年 4 月 1 日  
至 平成 23 年 3 月 31 日

社団法人日本ボート協会

## 平成 22 年度事業報告

当年度は、本会の目的である「ボート競技を振興して日本国民の体力の向上とスポーツ精神を育成することによりわが国文化の向上に寄与すること」に基づき、定款で定める各事業を以下のとおり実施した。

「全日本選手権大会及び各種競漕会の開催」については、第 8 回全日本ジュニア選手権は宮崎県で発生した口蹄疫の影響を受け、福井県美浜町へ会場を移して開催したが、荒天のため 1 日短縮を余儀なくされた。また、第 58 回全日本高等学校選手権、第 65 回国民体育大会ボート競技でも、荒天のために競技日程の調整を行う事態となったが、関係各位の格別の尽力により大会の成立を図ることができた。しかし、本年 3 月に開催予定であった第 22 回全国高等学校選抜大会については、同月に発生した東日本大震災の影響により大会開催を中止した。家畜伝染病の発生による会場変更、荒天による日程調整、大震災の影響等で困難が続いた 1 年であったが、関係各位の献身的なご尽力、開催地のご協力とご支援のお陰で大会を開催できたことに心からの感謝を捧げたい。

「オリンピック及び国際競漕大会への日本代表団派遣」については、シニアは 5 月から 7 月に亘る長期の欧州遠征を経てニュージーランド開催の世界選手権、引き続いて広州市で開催された第 16 回アジア競技大会に出場するなど、非常にタイトな合宿と大会出場の連続であったが、アジア大会では全クルーがメダルを獲得して翌年に繋がる成果を挙げることができた。23 年 8 月には 2012 年ロンドンオリンピック大会の出場権獲得をかけた世界選手権を控え、本年度の成果を余すことなく活かしていくことが求められる。U23 カテゴリーでは、7 月開催の世界 U23 選手権において、女子軽量級シングルスカルで 2 位を獲得し、前年の男子フォアに続いての上位獲得となった。U23 世代とジュニア世代の強化を図っていくことが、これからの日本の国際競技力向上に不可欠の課題であり、本会を挙げて強化実現に向けての活動を推進したい。

「ボート競技に関する諸規則の制定」については、7 個所のコースについて更新認定のための認定調査を行い、本会規定に基づきコース認定を実施した。また、公認審判員規定の見直しを柱とする規定の改定を 4 月 1 日付けで施行した。

「調査・研究・指導・強化及び普及啓発」については、審判員研修会を開催して認定試験を行い、審判技量の向上を図った。指導者養成事業は、日本体育協会公認スポーツ指導者養成事業を軸に、指導者の講習会、研修会及びボートインストラクター養成講座の開催を通じてボート指導者層の充実に努め、第 68 回国民体育大会から実施される国体監督の日体協公認指導者資格の取得義務付けを視野に諸事業を各地で展開した。

選手強化事業は、シニアは年間に亘って強化合宿を実施して国際大会に備えるとともに、U23、ジュニア世代も数次の強化合宿を実施して各世代に即した選手強化と発掘・育成事業を行った。

普及啓発事業は、第 23 回全国マシンローイング大会とボート普及イベントの開催、オリンピックムーブメントへの協力、全国ボート場所在市町村協議会との連携、関連団体への助成金交付と業務支援等を通じた普及活動を実施した。

メディカルサポート・ドーピング検査関連では、医師の大会派遣と遠征帯同、ドーピング検査と講習会の開催などを実施して啓発に努めた。

「競技者資格の決定」については、都道府県協会・競技団体とのインターネットによる選手登録・

競技エントリーシステムの運用が完全実施となり、当年度には全都道府県で運用体制が整った。更に広い層からボート競技への参加機会の増大に繋がるよう、システムのアップグレードも進めた。

「ボート競技に関する図書の刊行」については、広報誌発行のほか、報道機関、メディア等に向けた広報活動として、記者懇談会、取材機会の提供などを行い本会事業の広報活動を展開した。協会ホームページの充実に努め、22年度の総アクセス数は、約450万件となっている。

当年度は、本会が重要課題として推進する「人口増大と魅力向上プロジェクト」については、マスターズレガッタの開催などを通じてボート人口が増加傾向を示し、ボート競技に取り組む人々が全国的にも着実に伸びていることが示された年となった。

「財政強化プロジェクト」については、全世界的な経済環境の悪化の影響を受けて、我々スポーツ界を囲む環境も一層厳しいものとなり、今のところ早急な環境の好転も期待できない状況となったが、当年度の本会の収支状況は黒字で推移したことは、厳しい予算管理が実を結んだ結果である。これに甘んじることなく、翌年度は、財政強化活動の強化に取り組みねばならない。厳しい経済状況の中、寄附あるいは事業協賛を通じて協会財政を支えていただいた団体、個人に対して深甚な感謝の意を表したい。

新公益法人制度に基づく社団法人日本ボート協会への移行については、定款変更案の作成、事業の見直しと公益事業への集約、本会運営の機関設計と財務制度の見直し等についての検討を行い、本年5月開催の22年度通常総会における公益社団法人への移行承認に向けた諸業務の推進に鋭意取り組んだ。

## ■平成 22 年度実施事業

本会は、ボート競技を振興して日本国民の体力の向上とスポーツ精神を育成することにより、わが国文化の向上に寄与することを目的として、以下の事業を行った。

### 1. 全日本選手権大会及び各種競漕会の開催に関する事業

本年度は、以下の全日本選手権大会及び競漕会を開催した。大会成績は附属資料のとおり。

競漕大会名	開催期日	開催場所・会場
第 3 回全日本マスターズレガッタ	5/15 (土) ～5/16 (日)	兵庫県「円山川城崎漕艇場」
JAPAN CUP 第 32 回全日本軽量級選手権大会	5/21 (金) ～5/23 (日)	埼玉県「戸田ボートコース」
JOC ジュニアオリンピックカップ 第 8 回全日本ジュニア選手権大会	6/11 (金) ～6/12 (土) < 荒天のため 1 日短縮 >	福井県「久々子湖ボートコース」 < 口蹄疫のため会場変更 >
第 60 回全日本社会人選手権大会	7/3 (土) ～7/4 (日)	宮城県「宮城県長沼ボート場」
第 30 回全日本中学選手権競漕大会	7/24 (土) ～7/25 (日)	岐阜県「長良川国際レガッタコース」
第 58 回全日本高等学校選手権競漕大会	8/7 (土) ～8/10 (火)	沖縄県「塩屋湾特設ボート場」
第 37 回全日本大学選手権大会	8/19 (木) ～8/22 (日)	埼玉県「戸田ボートコース」
第 50 回オックスフォード盾レガッタ	8/21 (土) ～8/22 (日)	埼玉県「戸田ボートコース」
第 88 回全日本選手権大会	9/9 (木) ～9/12 (日)	埼玉県「戸田ボートコース」
第 65 回国民体育大会ボート競技	9/26 (日) ～9/29 (水)	千葉県「小見川ボート場」
第 51 回全日本新人選手権大会	10/15 (金) ～10/17 (日)	埼玉県「戸田ボートコース」
第 22 回全国高等学校選抜大会	23/3/19 (土) ～3/21 (月) < 震災のため中止 >	静岡県「浜松市天竜ボート場」

### 2. オリンピック大会及びこれに準ずる国際競漕大会に日本を代表するクルー及び役員を選定し、参加させることに関する事業

#### (1) 国際競漕大会派遣事業

本年度は、以下の国際競漕大会へ日本代表クルーを選定し、派遣した。各大会の参加種目、成績は附属資料のとおり。

派遣大会名	開催期日	開催国・会場地	派遣人数
FISA ワールドカップ第 1 戦	5/28 (金) ～5/30 (日)	スロベニア・ブレド	11 名
FISA ワールドカップ第 2 戦	6/18 (金) ～6/20 (日)	ドイツ・ミュンヘン	20 名
ヘンレーロイヤルレガッタ	6/30 (水) ～7/4 (日)	イギリス・ヘンレー	19 名

FISA ワールドカップ第3戦	7/9 (金) ~7/11 (日)	スイス・ルツェルン	20名
第16回アジアジュニア選手権	7/20 (火) ~7/23 (金)	中国・広州	9名
FISA U23 世界選手権	7/22 (木) ~7/25 (日)	ベラルーシ・ブレスト	13名
FISA 世界ジュニア選手権	8/5 (木) ~8/8 (日)	チェコ・ラシセ	8名
第1回ユースオリンピック	8/15 (日) ~8/18 (水)	シンガポール	2名
FISA 世界選手権	10/31 (日) ~11/7 (日)	ニュージーランド・ハミルトン	17名
第16回アジア競技大会	11/14 (日) ~11/19 (金)	中国・広州	13名

## (2) 国際審判員派遣事業

本年度は、以下の国際競漕大会へ国際審判員を派遣した。

派遣大会名	開催期日	開催国・会場地	派遣人数
FISA ワールドカップ第3戦	7/9 (金) ~7/11 (日)	スイス・ルツェルン	1名
FISA 世界ジュニア選手権	8/5 (木) ~8/8 (日)	チェコ・ラシセ	1名
FISA 世界大学選手権	8/13 (金) ~8/15 (日)	ハンガリー・セゲド	1名
FISA 世界選手権	10/31 (日) ~11/7 (日)	ニュージーランド・ハミルトン	1名
2010 アジアカップ	6/14 (月) ~6/16 (水)	シンガポール	2名
第16回アジアジュニア選手権	7/20 (火) ~7/23 (金)	中国・広州	2名
第16回アジア競技大会	11/14 (日) ~11/19 (金)	中国・広州	2名

## (3) 国際関係事業

国際連盟の事業活動、競技規則、大会開催計画、各国動向など、最新情報を把握のため、本年度は以下の国際会議へ担当役員他を派遣した。

会議名	会議日程	開催国・会場地	派遣人数
国際漕艇連盟 (FISA) 通常総会	11/8 (月)	ニュージーランド・ハミルトン	1名
アジア漕艇連盟 (ARF) 通常総会	11/17 (水)	中国・広州	2名

## 3. ボート競技に関する諸規則の制定に関する事業

### (1) ボートコース認定に関する事業

下記のボートコースについて、日本ボート協会コース規格規定に基づく認定調査を行い、当協会の公認コースとして認定した。

コース名称	所在地	等級	距離/レーン数	認定有効期間
浜松市天竜ボート場	静岡県浜松市	B	2000m/6 レーン	22/6/3～5 年間
桂湖ボートコース	富山県南砺市	B	2000m/6 レーン	22/6/25～5 年間
塩屋湾特設ボート場	沖縄県大宜味村	B	1000m/5 レーン	22/8/4～5 年間
田瀬湖ボートコース	岩手県東和町	B	2000m/8 レーン	22/8/30～5 年間
加古川市立漕艇場	兵庫県加古川市	B	1000m/5 レーン	23/1/31～5 年間
御所広域公園漕艇場	岩手県盛岡市	B	2000m/6 レーン	23/2/1～5 年間
美山漕艇場	和歌山県日高郡	C	1000m/4 レーン	23/3/1～5 年間

## (2) 公認審判員規定の改定に関する事業

審判員任期の4年間から2年間への短縮、受験資格の20歳以上から18歳以上への引き下げ、審判登録料の値上げを骨子とする審判員規定の改定を4月1日付けで施行した。

## 4. ボート競技に関する調査・研究・指導・強化ならびに普及啓発に関する事業

### (1) 審判関係事業

#### 1) 大会審判業務

当年度の本会主催・主管大会へ審判長、副審判長、審判員を派遣し、審判業務を行った。

#### 2) 審判員研修・養成事業

審判員の資格試験と認定試験及び研修会と講習会を以下のとおり実施した。

事業名	開催日程	開催場所	参加人数
第72回審判員研修会 (B級審判員認定試験併催)	6/13(日)	熊本県「斑蛇口湖ボートコース」	10名
第73回審判員研修会 (B級審判員認定試験併催)	5/21(金)～5/23(日)	埼玉県「戸田ボートコース」	10名
第74回審判員研修会 (B級審判員認定試験併催)	6/11(金)～6/13(日)	埼玉県「戸田ボートコース」	7名
第75回審判員研修会 (B級審判員認定試験併催)	7/3(土)	埼玉県「戸田ボートコース」	3名
第76回審判員研修会 (B級審判員認定試験併催)	10/15(金)～10/17(日)	埼玉県「戸田ボートコース」	10名
審判員講習会 (C級審判員認定試験)	都道府県協会の要請により随時開催		

## (2) 指導者養成事業

### 1) (財) 日本体育協会公認スポーツ指導者養成事業

日本体育協会公認スポーツ指導者制度に基づく各指導者資格取得のための養成講習会及び資格更新のための義務研修会を以下のとおり開催した。

養成指導者名	開催日程	開催場所	養成担当	受講者数
コーチ（専門科目）	10/30（土）～11/3（水）	埼玉県戸田市	日本ボート協会	31名
指導員（専門科目）	10/30（土）～11/3（水）	埼玉県戸田市	日本ボート協会	18名
	11/27（土）～11/28（日）			
	11/20（土）～11/23（火）	青森県青森市	日本ボート協会	13名
	11/6（日）～11/7（日）	静岡県浜松市	日本ボート協会	22名
	11/13（土）～11/14（日）			
	11/27（土）～11/28（日）	大阪府大阪市	日本ボート協会	17名
	12/4（土）～12/5（日）			
	12/18（土）～12/19（日）	埼玉県戸田市	日本ボート協会	16名
23/1/15（土）～1/16（日）				
全国指導者講師講習会	23/2/5（土）～2/6（日）	埼玉県戸田市	日本ボート協会	20名
資格更新義務研修会	5/2（日）他	滋賀県大津市 ほか	日本ボート協会 開催県ボート協会	67名
スポーツドクター	10月～23年2月	都内	日本体育協会	1名

### 2) 日本ボート協会認定ボートインストラクター養成事業

ボート普及を担う指導者人材を養成するため、ボートインストラクター養成講習会を以下のとおり開催した。当年度の認定者は51名、累計316名となった。

事業名	開催日程	開催場所	主管団体	受講者数
第1回講習会	7/31（土）～ 8/1（日）	青森県「新田名部川 ボートコース」	青森県協会	12名
第2回講習会	23/1/23（日）	広島県「芦田川漕艇場」	広島県協会	39名

### (3) 日本ボート協会認定セーフティアドバイザー研修事業

全国的な安全意識の向上を目指し、公認セーフティアドバイザー研修会を以下のとおり実施

した。全国で開催された安全講習会は附属資料のとおり。また、「アクシデントレポート制度による事故情報の収集」を制度化して、アクシデント、インシデントのレポートを収集し事故発生状況の把握と事故防止策の立案を行った。レポートの詳細は添付資料のとおり。

事業名	開催日程	開催場所	受講者数
平成22年度講習会	23/2/27(日)	埼玉県「戸田公園管理事務所」	31名

#### (4) 選手強化事業

##### 1) 国内合宿

シニア、U23及びジュニア日本代表選手の競技力強化を図るため、強化合宿を以下のとおり実施した。

区分	事業名	開催日程	開催場所
シニア	4月合宿①	3/28(日)～4/2(金)	埼玉県「戸田ボートコース」
	4月合宿②	4/9(金)～4/17(土)	埼玉県「戸田ボートコース」
	4月合宿③	4/26(月)～4/30(金)	埼玉県「戸田ボートコース」
	5月合宿①	5/6(木)～5/14(金)	滋賀県「琵琶湖漕艇場」
	5月合宿②	5/26(水)～6/8(火)	埼玉県「戸田ボートコース」
	7月合宿	7/28(水)～8/2(月)	埼玉県「戸田ボートコース」
	8月合宿	8/6(金)～8/24(火)	埼玉県「戸田ボートコース」
	9月合宿①	9/14(火)～9/25(土)	埼玉県「戸田ボートコース」
	9月合宿②	9/28(火)～10/1(金)	埼玉県「戸田ボートコース」
	10月合宿	10/2(土)～10/21(木)	千葉県「小見川ボート場」
	12月合宿	12/18(土)～12/23(木)	埼玉県「戸田ボートコース」
	1月合宿①	23/1/6(木)～1/18(火)	埼玉県「戸田ボートコース」
	1月合宿②	23/1/26(水)～2/2(水)	埼玉県「戸田ボートコース」
	2月合宿	23/2/24(木)～2/27(日)	埼玉県「戸田ボートコース」
3月合宿	23/3/2(水)～3/20(日)	岐阜県「川辺漕艇場」	
U23	5月合宿	5/25(火)～5/28(金)	埼玉県「戸田ボートコース」
	6月合宿①	6/12(土)～6/16(水)	埼玉県「戸田ボートコース」
	6月合宿②	6/24(木)～6/27(日)	埼玉県「戸田ボートコース」

	7月合宿	7/8(木)～7/12(月)	埼玉県「戸田ボートコース」
	2月選考合宿	23/2/24(木)～2/27(日)	埼玉県「戸田ボートコース」
ジュニア	第1次強化合宿	6/13(日)～6/16(水)	福井県「久々子湖ボートコース」
	第2次強化合宿	7/12(月)～7/16(金)	福井県「久々子湖ボートコース」

## 2) 海外合宿

世界選手権大会、ワールドカップ、世界ジュニア選手権大会の事前強化合宿を以下のとおり実施した。

区分	事業名	開催日程	開催場所
シニア	世界選手権事前合宿	10/24(日)～10/30(土)	ニュージーランド・ハミルトン
	香港強化合宿	23/2/7(月)～2/24(木)	中国・香港
ジュニア	世界ジュニア選手権事前合宿	7/27(火)～8/4(水)	チェコ・ラシセ

## (5) 競技者育成事業

競技力向上を図るため、「将来性を有する選手の発掘及び育成強化事業」を以下のとおり実施した。

区分	事業名	開催日程	開催場所
ジュニア	第1次強化合宿	12/16(木)～12/20(月)	埼玉県「戸田ボートコース」
	第2次強化合宿	23/1/19(水)～1/23(日)	埼玉県「戸田ボートコース」
	第3次強化合宿	23/2/8(火)～2/13(日)	千葉県「小見川ボート場」

## (6) 普及啓発事業

本年度は、以下の普及啓発事業を行った。

### 1) 第23回全国マシローイング大会の開催

第23回全国大会を10月～平成23年2月の間、全国9ブロック及び16都道府県の17会場で開催した。参加者3,879名、昨年比12.1%増、選手登録者の44.5%が参加した。

### 2) お台場レガッタ2010(F.W. ストレンジ杯併催)の開催

6月6日(日)、都内のお台場海浜公園において開催、63クルーの参加があり成功を収めた。

### 3) 「JOCスポーツ祭り2010」への参加

10月11日(月)、国立スポーツ科学センターで開催されたJOCスポーツ祭りに参加し、エルゴによるボート体験コーナーを設置、約900名の参加者へボートの普及指導を行った。

#### 4) 関連団体の活動支援

中学校、高等学校ボート競技の普及振興及び障害者ボート競技の普及を図るため、それぞれの関連団体である全国中学校ボート連盟、全国高体連ボート専門部、NPO 法人日本アダプティブローイング協会の競漕大会と普及活動に対して助成金交付と業務支援を行った。

#### (7) メディカルサポート・ドーピング検査

本年度は以下のような事業を実施した。

- 1) 主催大会開催中の救急事態に備え、医師、看護師を会場に常駐させ対応を図った。
- 2) 海外遠征に医師、トレーナーを帯同させ、選手のメディカルチェック、コンディショニングの調整・助言などの業務を行った。
- 3) 全日本選手権大会（全日本、全日本軽量級、全日本大学、全日本新人）に於いて、大会内ドーピング検査を日本アンチドーピング機構（JADA）の委託事業として実施した。  
計 57 検体の検査結果はすべて陰性であり、協会広報誌、ホームページで結果を公表した。
- 4) 日本アンチドーピング機構との協力を通じて、アンチドーピングに関する普及・啓発講習会を 4 回、大会開催時及び強化合宿の際に実施した。
- 5) 選手の身体データの収集・分析を継続し、ミズノスポーツ振興財団の助成を得て溜力解析の研究を実施した。

#### 5. スポーツマンシップの育成と競技者資格の決定に関する事業

本年度は以下のような事業を実施した。

##### (1) 選手登録・大会エントリーシステムの運用

都道府県ボート協会と所属競技団体に対して、インターネットによる選手登録・大会エントリーシステムの活用を推進し、47 都道府県協会の全てで運用体制が整った。

##### (2) 選手登録

本年度は、競技者資格に定める選手として 567 団体、8,716 名の登録を行った。内訳は、大学 120 団体、2,665 名、高校 227 団体、3,804 名、中学 28 団体、624 名、一般 192 団体、1,623 名であった。

#### 6. 競漕艇及び附属具の規格の決定と審査に関する事業

本年度は以下のような事業を実施した。

規格艇の検査

第 65 回国民体育大会、第 58 回全日本高等学校選手権競漕大会に於いて、使用艇の検査・監視業務を行った。

#### 7. 各種ボート競技に関する図書の刊行に関する事業

##### (1) 協会広報誌の発行

「ローイング」497 号～503 号を発行して、当協会の事業、全国のボート関係活動、ボート競技の記録、指導・育成などに関する記事を掲載した。

## (2) 広報活動

東京運動記者クラブの他、報道機関、テレビ、メディアと連携を図り、国内大会及び国際大会に関する情報の提供などを通じて協会事業の広報活動を行った。

## (3) 協会ホームページ

協会ホームページのグレードアップ、リニューアルを進めて、当協会事業に関する情報を迅速にアップし、関係団体・関係者に広く周知を図るとともに、より一層のコンテンツ充実を努めた。平成22年度の協会ホームページへの総アクセス数は、約450万件となっている。

## (4) 都道府県ボート協会ホームページの開設支援

都道府県協会の要請に協力し、ホームページ開設・維持に必要な支援を行った。当年度末の時点で47都道府県協会のうち32協会が開設している。

## 8. その他の目的を達成するため必要な事業

### (1) 協会財政基盤の強化に関する事業

第88回全日本選手権大会の開催に当たり、企業・団体からの協賛を募った。1社より特別協賛、12社より一般協賛の協力を得た。

### (2) 大会後援に関する事業

都道府県協会の依頼に基づき、本年は以下の9競漕会に対して開催後援を行った。

1. 第57回九州朝日レガッタ
2. 第38回中部選手権競漕大会
3. 第1回堺・高石市民レガッタ
4. 第27回松江市民レガッタ
5. 第54回相模湖レガッタ
6. 第19回全国市町村交流レガッタ加古川大会
7. 第6回全国中学校選抜ボート大会（震災により中止）
8. 第56回中日本レガッタ
9. 第64回朝日レガッタ（震災により中止）

### (3) 新公益法人制度移行に関する業務

公益社団法人への移行に備えて、新制度のもとで協会運営を行うため、定款、諸規定、事業計画、予算策定、その他移行に必要な準備作業を進めた。

以上